

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(シンガポール)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2016年12月11日~24日の日程で、CIS(カップリング・インターンシップ)初となるシンガポールでの活動が実施されました。シンガポールでの連携大学は南洋理工大学で、本学工学研究科2名、外国語学部タイ語専攻1名、同英語専攻1名、南洋理工大学からは工学部2名、人文学部2名の合計8名が参加しました。南洋理工大学にて実施した2日間の事前研修に続き、5日間の行程で千代田シンガポール(CSL)(千代田化工建設)にて企業実習に参加しました。CSLの実習ではプロジェクト部、エンジニアリング部、調達部、建設部他、各部署からの業務に関する講義を受講することで、EPCビジネス(Engineering, Procurement, Construction)について学びました。また、同社のサブコントラクターも訪問し、工場見学を始め、溶接業務、現場業務従事者の様子などについて理解を深めました。更に、ジュロン島にあるCSLの顧客プラント訪問の機会も頂戴し、化学プラントを間近で見学するなど、大変貴重な経験を得ました。今回のCISでは「コミュニケーションの課題と対策」がテーマだったことから、CSLでは様々な社員にインタビューを行う時間を多く頂戴し、コミュニケーション、職場環境、モチベ

ーションなど多岐に渡る議論が交わされました。正にマルチナショナルな職場で働くCSLの社員からは漏れなく、相手を尊重し、助け合う、そして正直であることがコミュニケーションにおいて最も重要であるという言葉が返され、学生の心に響いた様子でした。

12月23日には南洋理工大学において最終報告会が開催され、CSLからは柳原社長、Goh取締役、増子取締役、山畑取締役が、南洋理工大学キャリアアタッチメントオフィスからLoh部長、Chong-Goh副部長、Chuaアシスタントマネージャー他の参加がありました。シンガポールにて40年を超える業務実績を持つCSLにおけるコミュニケーションの課題を探ることは、学生にとって困難を極めました。A、B両チームからは2週間におけるチーム作業の経験なども踏まえてまとめ上げた発表が行われ、参加者からはコメントや質問も出され、学び多い報告会となりました。

シンガポールでのCIS実施は今回が初でしたが、マルチカルチャーな社会構造を目の当たりにしながらの活動は、将来のグローバルリーダー育成という本活動の趣旨に合致した充実したものとなりました。

